

平成20年度 丹後広域振興局 運営目標 中間報告

中期ビジョン	行政経営	
事項 1	管内市町、府民との連携強化による行政経営の推進	
	運営目標	進捗状況（成果）及び今後の取組
	<p>○地域力再生プロジェクト支援事業交付金の効果を検証・分析することで、地域団体の活動がより充実するよう支援するとともに、地域団体間での情報交換ができるネットワークを構築することで、地域力の再生効果を高めます。</p> <p>○管内2市2町との情報共有と連携を強化するため、管内市町長、副市長・副町長との意見交換会を年4回以上開催するとともに、課長、職員レベルでも連携を密にし、地域課題に対応していきます。</p> <p>○丹後活動プランに基づく事業を府民の意見を踏まえて拡充していくため、振興局ホームページの活用に加え、「たんご活動プランニュース」の定期的発行(年2回、全戸配布)、「たんご活動プランニュースレター」の発行(年2回)により、府民に多面的な情報提供を行います。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域力再生プロジェクト交付金の第1次募集では30団体を支援。 ・第2次募集について、28団体から応募があり、今後、局、市町が協働して事業を展開 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内市町長、副市町長との意見交換会を開催（9月） ・広域市町村圏事務組合理事会に局長が出席し、管内市町長と意見交換（5月） ・今後とも、管内市町と連携を密接に対応する。 <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域戦略事業等の取組を紹介する「たんご活動プランニュース」を12月と3月に発行予定。 ・「たんご活動プランニュースレター」を12月と3月に発行予定

地域振興計画	観光振興と交流・定住の促進	
事項 1	多様な資源を活用した新たな観光・交流・定住施策の展開	
	運営目標	進捗状況（成果）及び今後の取組
	<p>○丹後広域観光キャンペーン協議会と連携し「私のふるさと丹後」を目指した新たな観光戦略事業を積極的に展開します。</p> <p>・観光入込者数目標 600万人</p> <p>・「丹後ふるさと観光大使」などの人材ネットワークを活かす中で、テレビをはじめメディアを活用した丹後の食、自然等の丹後の観光PR</p> <p>・季刊情報誌「食遊楽里」を各号7万部発行し、JRの関西主要駅や道の駅、高速道路SA、観光施設に配布しきめ細やかな観光情報を発信</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶観光入込者数は12月集計のため現時点では未集計。今後とも目標達成に向けて様々な誘客活動等を積極的に展開予定 ▶MBS「ちちんぷいぷいinオーサカキング」(7月9日・8月1日)、KBS「京都ちゃちゃちゃ」(7月24日～25日)、関西テレビ「鉄道オヤジの行き当たりバッサリ」(7月20日～21日)「都のかほり」(6月22日～23日)、関西テレビ「鉄道女☆春の旅」(4月11日～12日)などテレビ取材に対応し、順次放映。今後もメディア、「丹後ふるさと観光大使」による情報発信を積極的に行う。 ▶季刊情報誌「食遊楽里」は、夏号(6月)、秋号(9月)を各7万部発行。冬号、春号は12月、3月に発行予定

<ul style="list-style-type: none"> ・「丹後ふるさと検定」の実施（受検者130人以上） 丹後地域の人々が地域の魅力を再発見するための学習機会を提供し、観光ガイドの育成や地域のもてなし意識を向上。 ①検定用テキストブック「丹後新風土記」改訂版の発行：平成20年6月～②検定向けセミナーの実施：9月（集中講座の開催） ③検定日：10月下旬 ④検定合格者を「丹後観光ロコミ大使」として組織化し、活動を強化 ⑤丹後教育局の「らぶ・らぶ丹後『ふるさと夢・未来』事業」と連携したPR 		<ul style="list-style-type: none"> ▶第2回「北京丹後ふるさと検定」（10月19日）を舞鶴、宮津、京丹後会場の3会場を増やして実施（受験者96名）。検定に向けた第1回セミナー（9月13日）は、38名受講。9月27日実施予定の第2回セミナーは47名受講。検定用テキストブック「丹後新風土記」改訂版を7月に2000部発行。管内小・中・高等学校にも配布・PR また、新たな取組としてセミナーの講演ビデオ（DVD）の貸し出しを実施。（25件貸出）
<ul style="list-style-type: none"> ・大都市圏（東京、大阪）で大手旅行会社、マスコミ、丹後観光大使を対象に観光資源のPRとともに、トリガイ、イワガキ、カニ、カキ、アワビなどの海産物、特A「丹後コシヒカリ」、京野菜などの農産物、丹後産焼酎、地酒、加工食品の試飲試食会、丹後ちりめんなどの丹後特産品の展示PRを実施 		<ul style="list-style-type: none"> ▶「丹後PRフェアin東京」を大手旅行会社、マスコミ関係者等91名の参加で開催（6月4日）し、観光情報の発信、地場産品等の展示、海産物等の試食、PRを実施。また、カニの解禁直後、「丹後PRフェアin大阪」を開催（11月19日）、大手旅行会社、マスコミ関係者等を招き観光情報の発信、カニ等丹後の食の魅力をPR予定
<ul style="list-style-type: none"> ・中国、韓国、台湾、香港などの旅行会社、マスコミを対象としたファミトリップ（下見旅行）の実施、観光関連団体を対象とした中国語講座の開催及び外国語版観光PR用DVDの作成 		<ul style="list-style-type: none"> ▶韓国パンスターフェリー（7月19日）の入港と同時開催を予定のファミトリップは中止。韓国（5月20日～21日）、タイ（7月28日～29日）の雑誌取材対応。中国語講座を2会場（5月20日～6月27日）で開催（19名受講）。今後、外国語版DVDの作成予定
<ul style="list-style-type: none"> ・海、山、里の豊富な食材を活用した丹後ならではの食を開発し、市町・観光団体と連携したPRイベントを実施 ・農林水産業や地場産業等の様々な体験メニューを掲載した「体験マップ」を改訂し、体験施設の魅力を幅広くPR 		<ul style="list-style-type: none"> ▶「ほんまもん体験事業」座談会（6月18日）、「お魚永揚げ見学会」（7月14日）を実施 ▶体験マップの企画検討中（年度内発行予定）
<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年開催予定の「自然公園ふれあい全国大会」も視野に、ネイチャーガイドのガイドブックを作成、養成講座を開催（5コース） 		<ul style="list-style-type: none"> ▶「丹後ネイチャーガイド養成講座」の開講式（7月5日）を皮切りに、9コースを実施予定（延べ受講者は104名）。2月～3月にかけて、モデルガイドツアーの実施を予定
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の日（10月14日）に因み、「タンゴ悠遊号」などKTRの企画商品と連携した「のんびりローカルな鉄道の旅」等観光魅力づくりの実施 		<ul style="list-style-type: none"> ▶KTR駅構内等を利用したコンサート等を11月2日に開催
<p>○丹後地域内の企業、商工観光団体、府、市町が一体となって結成した「丹後きものネット」を中心に、昨年引き続き、ゆかた、きもの楽しむ日、月間を設定し、和装のPRとともに、観光資源の創出を図り、和装振興と観光産業を活性化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きものパスポートマップの作成などの取組に加えて、次の取組を実施。 天橋立きものまつりでの「丹後丸ごときもの市」や各市町での和装姿による参加を促すイベントへの助成を行い開催するとともに、「きものフォトサービス」の実施などにより、きものイベントへの「きもの」来場者の増加を図る。（192,550人→202,800人） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ▶ゆかたを楽しむ月間には、ゆかたポスターの作成と、新たにショッピングセンターや高校などで、きものクイーンによるゆかたキャンペーンを行い、ゆかた着用を呼びかけ。ゆかたを楽しむ日には、きものNET参加機関が業務中にゆかたを着用しPRを行った。各地域のイベントでフォトサービスを実施（6箇所約400名）。ゆかた着付け教室では、4会場56名が受講した。丹後きものクイーン2期生を募集し、16名の応募の中から4名を任命

<p>○「期間定住」や「定住」への円滑な移行を促進するため、定住希望者の多様なニーズに応じて「地域の魅力」を総合的に提供する経営体（丹後「農のある暮らし百貨店」）が、平成19年度に地域資源を商品化したものを商品として売り出します。</p> <p>①集落合意のためのワークショップを開催し、丹後「農のある暮らし百貨店」となる経営体をつくります。（1経営体）</p> <p>②経営戦略づくり等の専門家による実践講座を開催して、百貨店を運営する人材を育成します。（10名）</p> <p>③ホームページ作成や旅行者への売り込みを実施して、商品の売り出しを開始します。（3商品、顧客数50名）</p>	B	<p>▶常吉村営百貨店を丹後「農のある暮らし百貨店」の経営体として育成中（1経営体）。ワークショップは商品づくりを含めて5回開催</p> <p>・人材育成のための研修会を11月に開催予定</p> <p>・8月及び9月に計2商品を試験販売（顧客数計18名）。次回は11月実施予定</p>
--	---	--

地域振興計画	農林水産業の振興	
事項 1	地域の特色を引き出す農林水産業の振興	
	運営目標	進捗状況（成果）及び今後の取組
<p>○丹後国営開発農地で新しい茶の産地づくりを進めるとともに、製茶工場の建設や販売戦略を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成20年4月現在の総植栽面積40haを平成22年3月末に50haに拡大（新規植栽面積平成20年度5ha、平成21年度5ha） 平成22年4月に製茶工場が稼働できるよう、京丹後市や農業団体との連携を強めて製茶工場建設計画の具体化を支援する。 農業法人の構成員対象に他産地の製茶工場での実習等研修を行い、製茶技術者を5名育成する。 山城地域の茶商との交流会を開催し、茶商に対して良質茶産地としての理解と評価を得る取組を展開する。（茶商10社以上） 引き続き、酸度矯正による土壌改良を生産者に技術指導し、順次生育不良茶園の改善を図る。（約0.5ha） 	B	<p>▶新規植栽面積の2haが具体化しつつある。今後、既植栽者が計画している2ha拡大に向けた地元調整と本年度参入予定者1名、1haの用地確保を市や団地管理組合と連携して推進する。</p> <p>・国や融資機関等から事業に対する理解が得られてきており、市と生産者と連携して、補助事業採択に係る協議や融資等に係る細部の詰めを行っている。</p> <p>▶綾部市の製茶工場で製茶研修を開催（農業法人構成員3名参加）するなど技術向上のための取り組みを実施している。</p> <p>▶山城地域の茶商（6社）及び茶協同組合等（5団体）との交流会を京丹後市で開催し、地元産茶の試飲（求評）と茶園見学等を通じて京丹後市産茶に対する理解を深めた。</p> <p>▶硫黄華による高アルカリ土壌の酸度矯正と客土による土壌改良を指導し、生育不良茶園の改善を図っている。</p>
<p>○「丹後コシヒカリ」の「特A」評価を維持するため、丹後米改良協会や丹後農業研究所と連携して品質向上技術の実践をさらに進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 良食味米実証ほ4箇所を拠点とした生産技術指導の展開や良食味共励会等の開催による特A評価への技術研鑽を拡大 	B	<p>▶良食味米実証ほ6箇所を設置し、互見会や検討会のを開催により、生産者同士の情報交換や技術交流が図られた。良食味共励会への参加者が昨年よりも10名増加し、良食味米生産に意欲ある生産者が増加した。</p> <p>▶今後、実証ほの分析と取りまとめ、良食味共励会の開催、食味ランキング「特A」維持に向け技術支援。</p>
<p>○集落にあった営農体制の充実と経営安定のための経営戦略づくりを進めるため、管内6集落を対象に、モデル集落営農組織を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人化を目指す集落営農組織への法人化実践講座の開催 米の直播栽培実証ほを設置し省力低コスト米生産の技術普及 	B	<p>▶実践講座により1集落で営農組合設置、もう1集落で法人化（農業生産法人）ができた。</p> <p>・水稻直播栽培実証ほ2箇所、水稻疎植実証ほ2箇所を設置し、小豆省力機械化実証ほ4箇所（大規模実証1箇所含む）を設置。今後の調査結果も含め、モデル指標を作成する。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・集落組織の経営条件に応じて、みず菜や機械化栽培による小豆などを組み合わせた水稲複合経営のモデルづくりを推進 		<ul style="list-style-type: none"> ・集落営農組織の農地管理や経営確立を目指し、水田作物の省力・低コスト管理技術を実証展示や京野菜の紫ずきんやみず菜の経営実証を行った。今後、調査の取りまとめ、検討会により組織経営確立を支援し、モデルづくりを進める。
<p>○みず菜などのブランド京野菜生産を振興し、出荷量の増加を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みず菜450トン（平成19年度実績441t）、九条ねぎ70トン（平成19年度44t）、聖護院大根85トン（平成19年度21t）の年間出荷量を実現 ①みず菜と九条ねぎでハウスを複合的に有効利用できる、京野菜複合経営モデルの普及推進と担い手の育成 ②聖護院だいこん・えびいも・伏見とうがらし・賀茂なすの新規導入する合計面積を1ヘクタール以上確保 ③府試験研究機関で開発された紫ずきん2号の普及を促進するため、栽培者10戸で展示実証 	B	<p>▶九条ねぎ、聖護院大根の出荷量は増加見込み。みず菜は目標出荷量を確保するために、市町・JA等の特産物育成協議会と連携し今後の栽培促進の指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みず菜生産量（8月現在）：164.0t（計画比36.4%、H19年比87.2%） ・九条ねぎ生産量（同上）：37.6t（計画比53.7%、H19年比116.7%） ・聖護院大根栽培面積（同上）：約250a（H19面積160a、H19年比156.3%） <p>①複合モデル戸数は栽培期間中のため集計中。H19年比やや増加の見込み。 ②4品目新規導入面積は、86a増となった。（H19年402a→H20年488a） ③紫ずきん2号栽培実証戸数は、11戸で61.5aを確保。（H19年：7戸、20.0a）</p>
<p>○丹後地域の農業生産を支える多様な経営体や人材の確保と育成を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年農業者の経営者能力向上を支援（経営能力セミナーの開催4回） ・個別経営体の法人化を支援（2経営体の立ち上げ） ・集落営農基礎講座（7回）の開催と先進モデル集落（5集落）の運営支援 ・多様な担い手を対象に基礎的な農業技術の習得支援（農業基礎講座の開催7回） 	B	<p>▶若い農業者を対象に農業経営スキルアップセミナーを1回開催。今後、3回開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別経営体1グループについて法人化へ向けた支援実施中 ・集落営農基礎講座は今後予定。複合経営による収益（小豆、京野菜）の拡大へ向けた技術実証を行った。今後、先進モデル集落の運営支援に当たる。 ・基礎的な栽培技術や農機の基本的操作の農業基礎講座を4回開催。今後、管内先進事例視察や土壌肥料技術などの講座を3回開催
<p>○農産加工や直売活動に取り組むグループのネットワーク化を図り、豊かな地域特産物のPRと販売額向上への取組を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同市の開催（京丹后市管内1回、宮津市管内1回） ・加工直売組織の経営向上を支援（加工直売セミナーの開催3回、出張セミナー5回） ・新商品開発で売上増（2事例） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市の開催（京丹后市管内1回、宮津市管内1回）今後開催予定 ・加工直売組織の経営向上を支援（加工直売セミナーの開催2回、出張セミナー2回）し引き続き支援を行う。 ・新商品開発で売上増（1事例）の事例作りを進める。
<p>○丹後産水産物のイメージアップと付加価値向上のためのブランド化と生産体制の強化・安定供給をめざします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トリガイ、イワガキの販売促進会議（2回開催）。丹後水産物利用拡大キャンペーンの実施 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・磯根資源を活用したつくり育てる漁業の振興と地域特産品の育成 宮津市栗田地区での丹後とり貝の生産拡大（受入種苗数7万5千個、販売額10百万円） 宮津湾でのトリガイ養殖の開始（区画漁業権の設定） 宮津市田井地区でのアワビ種苗放流数3万個 簡易アワビ陸上養殖の普及 	A	<p>▶丹後とり貝及び育成イワガキの今年度出荷に係る販売促進会議が4～5月に2回開催され、出荷方法や効果的な情報発信などについて検討が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き漁業者及び府漁連が中心となり、販売会議や研修会を開催し、今後の販売促進に係る取組方向の検討や、関係者の意識向上を図っていく。 ・地元市や丹後広域観光キャンペーン協議会、漁業者団体等と連携したイベントの実施、丹後水産物の食材提供や試食会などのPR活動等を行った。 <p>▶宮津市栗田地区において、7月に丹後とり貝種苗約6万個を受入れ、育成を開始した。また、今年度の丹後とり貝販売額は約7百万円であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮津湾において、2研究グループが次回漁業権更新（平成21年1月）時に免許設定、事業化を図ることとしている。 ・宮津市栗田地区では、21年3月にアワビ種苗3万個を放流予定。今後、潜水漁法導入による放流アワビの効率的漁獲や種苗購入費積立制度の導入を進め、アワビ栽培漁業を推進する。

<p>・担い手の確保・育成（漁業技術講習会等の開催2回）</p>	<p>・現在、伊根町及び京丹後市久美浜町の2経営体が簡易アワビ陸上養殖を実施している。今秋には、さらに2経営体（伊根町蒲入地区、京丹後市中浜地区）が養殖を開始する予定 ▶6月に磯根漁業者を対象に、アワビ栽培漁業に関する研修会、潜水技術講習会を各1回開催した。 ・今後、漁業・養殖業技術経営研修会を開催予定</p>
----------------------------------	--

地域振興計画	織物、機械金属等地域産業の振興	
事項 1	地場産業の振興と新分野・新産業の創出による地域経済の活性化	
	運営目標	進捗状況（成果）及び今後の取組
<p>○丹後織物の地域ブランドを生かして売れるものづくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無地・紋織物のリーズナブルでお洒落な取り扱いやすい「KIMONO」と、通気性や吸湿性など機能性に優れた着心地の良い婦人服地や、開衿シャツなどのメンズウェアを15点以上開発 ・丹後織物のブランド下化を図るため、機業とデザイナーのコラボレーションにより、概ね4グループ24機業で和洋装地や生活関連商品の新商品開発で企画力強化と販路開拓をさらに実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> ▶トレンドをとらえた「売れる和・洋装素材」を28点开発 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、和・洋装素材の開発とJC（10月15日～14日）、丹後織物求評会（京都市、11月25日～27日）での展示発表を予定 ▶4グループ29機業（実機業）が専門家とのコラボによる新商品開発を実践中 <ul style="list-style-type: none"> ・和装洋装製品開発4グループの打合せ：計12回開催 ・洋装グループ①の自主的な展示販売会3回（大阪、東京、仙台）開催を支援 ▶今後も29機業が新商品開発を実践し、展示会の開催、販路開拓を推進 <ul style="list-style-type: none"> ・和装①「夢ぞしあるキモノ展」11月11日～14日（京都国際工芸センター）展示発表。3月14日～15日東京展予定 ・和装②自主的な「絹100反白の選択展」10月2日～8日（東京都）展示会、販路開拓 ・洋装①「日本の技シルク展」10月23日～29日（神戸市）展示発表、販路開拓促進 ・洋装②展示発表会に向け和の要素を入れたファッション製品開発、展示会予定
<p>○「北部産業活性化拠点・京丹後」の整備を進め、織物・機械金属振興センター等の移設と併せて平成20年秋に全面オープンします。</p> <p>また、産学公が結集する「人材育成会議」を開催し、計画的な人材育成事業を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後機業の技術伝承と後継者の若手人材を10名以上育成 ・機械金属業における高度機械加工技術者を5名以上養成 ・織物、機械金属の技術相談を通じて在職者の人材育成延べ3,000名以上 ・各種研修会、講習会の実施による受講者延べ3,000名以上 ・拠点における人材育成研修についての有用な評価方法を検討し、その手法により評価結果を公表 	B	<ul style="list-style-type: none"> ▶織物・機械金属振興センター等は9月22日までに移転を完了、名称を「丹後・知恵のものづくりパーク」と決定し、10月23日にオープニング式典及び記念講演を行い、全面オープン ▶丹後織物ひとつづくりコース（2コース）で、丹後機業の後継者11人を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・同コース（15コース）で延べ75人の参加を決定、現在も追加募集中 ▶織物、機械金属の技術相談を通じて在職者の人材育成延べ2,467人 <ul style="list-style-type: none"> ・織物、化学関連 技術相談 2170件、依頼試験 823件 ・機械金属関連 技術相談 297件、依頼試験 129件、機器貸付 231時間 ▶各種研修会、講習会の受講者延べ1,736人 <ul style="list-style-type: none"> ・丹後産地経営者育成講演会（66人） ・織機調整初級（延べ25人） ・繊維基礎研修（延べ60人実施中） ・ものづくり基礎技術習得研修（延べ560人第2クール実施中） ・機械金属基礎セミナー（延べ682人実施中） ・金属熱処理技術研修（延べ44人） ・知的財産入門セミナー（延べ29人）

		<ul style="list-style-type: none"> ・KES取得セミナー（延べ32人） ・鍛造基礎技術セミナー（延べ160人実施中） ・製図基礎講座（延べ78人 実施中） <p>▶引き続き、計画的な人材育成事業を実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械金属業における高度機械加工技術者を5名以上養成予定
<p>○新事業や地域資源の活用など意欲ある中小企業の支援を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問や情報提供を強化し、産学公連携や新分野進出等に取り組む企業を2社以上支援 ・消費者との接点拡大とものづくり産業の活性化に向けて、「ええもん工房」づくりに35工房以上参加、来場者1,000人以上。 <p>・機業の海外展開は、民間主体での活動に道筋をつける視点で、引き続き技術的支援を継続する。</p>	B	<p>▶「丹後・知恵のものづくりパーク」トライアル・ゾーン（地元企業が新分野進出に活用）に、新たに1社が入居し、合計3社の新分野進出の事業活動を支援中</p> <p>▶丹後ちりめんを活用した軒先飾り・マップ作成、研修会等の開催により、<u>21工房</u>が年間を通じて一般公開中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10～11月には、計36工房が「丹後ええもん工房」で公開を予定。マップの新聞折り込み、ホームページ、府・市町広報誌掲載等でPRし、来場者1,000人以上を目指す <p>▶海外展開への取組体制強化のため、参加企業でLLP（有限責任事業組合）を立ち上げ、「きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業助成」を活用し、丹後みずの魅力を有効に伝える手段として、丹後織物を素材としたウエディングドレスを製作している（10月完成予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月と1月にフランス（パリ）で展示会を開催、ウエディングドレスの展示、個別商談活動等の取組を（財）京都産業21北部支援センターとともに支援
<p>○丹後地域の資源を活用した新たな加工食品づくりを実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産物を活用した新たな特産品「丹後の旨いもんづくり」を目指し、平成19年度に開発した加工食品を商品化し、販売開始（伸子イカ、しょうゆ干し、アカモクまぜご飯の素、海藻漬物、桑の実リキュール他） ・平成20年度に新たに支援する食品加工グループを公募し、旨いもんづくり委員会で支援する1つのグループを決定し、平成21年度の商品化に向けて支援 	B	<p>▶平成19年度採択の「桑の実リキュール」は8月に商品化、伸子イカ、海藻漬物等は、商品化を目指してパッケージデザインを検討中</p> <p>▶平成20年度に新たに、支援グループを公募し、2グループ決定（サワラ加工品、ぶどうジャムなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後10月に、管内の旅館のおかみさん団体や土産物店を対象に商品開発に向けた試食会を開催、2月には商談会を開催予定

地域振興計画	生活・交通等基盤整備の推進	
事項 1	地域での生活や活動を支える条件整備と域内外の交流を活発にする基盤の整備	
	運営目標	進捗状況（成果）及び今後の取組
	<p>○地域の交流・産業基盤を活性化させる高速交通ネットワークである鳥取豊岡宮津自動車道の延伸に向けて着実に事業を実施します。</p>	<p>B</p> <p>▶9月13日の綾部安国寺IC～京丹波わかIC間の開通により、宮津市～京都市間の所要時間が、従来の約120分から約105分に短縮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合わせて、宮津天橋立ICにETC設備を完備し、ETC割引を開始 <p>▶宮津野田川道路の「第12トンネル」の貫通式を開催（4月17日。完成は平成21年3月の予定。）</p>
	<p>○丹後地域の骨格となる幹線道路の通年2車線確保を目指し、重点的な整備を図ります。</p> <p>国道178号上野平バイパス：新規着手、国道482号丹後弥栄道路：継続して事業推進、国道312号橋爪道路：</p>	<p>B</p> <p>▶国道178号上野平バイパス 企画調査：発注準備中 国道482号丹後弥栄道路 地元協議中、幅杭設置：準備中 国道312号橋爪道路 用地買収、橋梁下部工：実施中 →幹線道路の重点的な整備を目指して、今後とも早期の事業進捗を図りたい。</p>

<p>用地買収・橋梁下部工 ・鳥取豊岡宮津自動車道（野田川大宮道路）事業推進に向け支援。 （新規事業着手）味土野大宮線：用地買収 （供用開始箇所）国道178号府中道路：現道拡幅部の供用開始を目指す。</p>		<p>▶用地立会が完了したため、用地買収に向け地元協議を進める。</p>
<p>（新規事業着手）国道178号（宮津市里波見）：測量・調査 ・国道178号（与謝野町岩滝交差点部分）：測量・調査</p>	B	<p>▶現道拡幅部300m完成</p>
<p>○歩行者等の安心・安全を確保する道路整備を進めます。 （新規事業着手）・国道178号（宮津市里波見）：測量・調査 ・国道178号（与謝野町岩滝交差点部分）：測量・調査</p>	B	<p>▶国道178号（宮津市里波見） 測量・調査：発注済み 国道178号（与謝野町岩滝交差点部分） 用地立会完了 →今後とも早期の事業進捗を図りたい。</p>
<p>（完成予定箇所）・国道312号交通安全（京丹後市久美浜町野中～永留）</p>		<p>▶国道312号（京丹後市久美浜町野中～永留） 工区完了、供用済み</p>
<p>・網野峰山線（管橋側道橋）</p>		<p>▶網野峰山線（管橋側道橋） 工事発注準備中 →今後とも早期の事業進捗を図りたい。</p>
<p>○生活道路の整備のスピードアップを図り、効果的な整備を進めるための1.5車線の道路整備の推進 13路線整備予定</p>	B	<p>▶単独事業の箇所決定が9月中旬となったので、事業進捗が遅れたが、13路線の事業を準備中。 →今後とも早期の事業進捗を図りたい。</p>
<p>○管内の各事業の事業進捗を図るため、用地取得事務の迅速かつ適正な実施に努め、地元関係者に十分説明し理解を得ながら、困難事案については、土地収用も視野に入れて、計画的かつ円滑に事業を実施します。</p>	B	<p>▶困難事業について、市町や地元にも協力要請をしながら、ミニ収用の「仲裁」制度を視野に入れて取り組むこととしている。</p>
<p>○公共事業については、府民協働による事業推進を積極的に進めます。 ・「ワークショップ」や「出前語らい」等の実施により府民との協働を積極的に取り組み、地域づくりやまちづくりにつながる公共事業の整備及び取組の推進を図る。(20目標数 府民協働5,000人)</p>	B	<p>▶事業計画説明会やボランティア等に多くの方に参加いただき、9月末時点で約5,800人の参加があった。 →今後も、土木フェスタの開催など、積極的に府民協働に取り組み、より良い地域づくりに努めていく。</p>
<p>・ボランティア活動の推進及び将来に向けた参加拡大 (20新規目標数 10団体)</p>		<p>▶府民協働による事業推進を積極的に進めており、当初目標を上回り、順調に推移している。(合計30団体) 天橋立まもり隊：14団体、約900名参加 さわやかボランティアロード：2団体が新規登録 たんご 地域に愛される川づくり事業：14団体に認定書を授与（9月25日） →今後も、参加拡大に向けて積極的に取り組んでいく。</p>
<p>○丹後地域における利用しやすい公共交通ネットワークの実現に向けて、交通事業者、管内市町及び地域とともに、「改善実行計画」に基づき、駅や公共施設での分かりやすい情報提供を充実させるとともに、駅周辺等の美化のための花いっぱい運動などの取組を実行していきます。 また、管内市町の地域公共交通会議を支援します。</p>	B	<p>・伊根町が地域公共交通会議を設置（5月）し、管内4市町全てに同会議を設置済み ・花いっぱい運動（11月に丹後神野駅で実施予定、峰山駅でも実施計画） ・11月に「分かりやすく使いやすい公共交通ネットワーク実現会議」を開催予定</p>
<p>○北近畿タンゴ鉄道（KTR）の存在価値等について沿線市町と議論し、課題を明確にした上で、地域での利用客の増加に向け、市町・KTR利用促進協議会等の関係機関が</p>	B	<p>▶利用者数の状況 ・本年度上半期（H20.4～9） 1,024,275人（対前年度103.0%） ・夏の旅客輸送実績（H20.7.18～8.17） 123,499人（対前年度104.2%）</p>

<p>連携して、ノーマイカーデー、駅ナカ特産展の開催などの魅力ある駅づくり、企画列車・車両ペインティングによる魅力ある鉄道づくりなどの利用促進の取組を広げるとともに、丹後広域観光キャンペーン協議会等の関係機関と連携した取組により、地域外からの誘客も進め、年間総輸送人員200万人を目指します。また、平成21年度サポーターズクラブ会員1万人 達成に向けて、会員向け企画、沿線市町によるPRの展開により、会員5,000人を目指します。</p>		<p>▶サポーターズクラブ：新たに、トレインオーナー制度を設置 クラブ会員 2,375口、オーナー会員 1,095口 (H20.9末現在) ▶国の地域公共交通活性化・再生事業を活用し、宮福線開業20周年記念事業、車両ラッピング、レンタサイクル活用事業、サイクルトレインの導入等を実施</p>
<p>○丹後NPOパートナーシップセンターを育成・交流・連携拠点として、府庁NPOパートナーシップセンターと連携し、NPOの組織運営 力向上のための講座・交流会を5回以上開催するとともに、市町とも連携して、団体が主体的に事業展開できる環境を整えます。</p>	B	<p>▶丹後地域NPO団体による情報交換会（活動報告及び意見交換）を3回実施 ・今後、助成金講座及び会計・税務講座を実施予定。</p>

地域振興計画	安心・安全、環境先進の地域づくり	
事項 1	子どもからお年寄りまで安心・安全で元気に暮らせる地域づくりと環境先進地をめざす地域づくりの推進	
運営目標	進捗状況（成果）及び今後の取組	
<p>○災害箇所の復旧事業の早期完了を着実に実施していきます。 <平成16年台風災害関連> ・平成21年度完成を目指し、大手川の河川激甚災害対策特別緊急事業により改修事業を推進します。 改築橋梁（全体13橋）の残り4橋の発注及び着手、完成4橋を目指す。 第1工区：大手川橋から京口橋区間における護岸工の概成を目指す。 第2工区：護岸工及び滝馬川改修の本格的着手。 第3工区：当該工区の護岸工関係について6～7割の概成を目指す ・滝馬川：砂防激甚災害対策特別緊急事業の全工事完成を目指します。</p>	B	<p>▶橋梁改築の事業促進 現在工事中の5橋の内2橋が20年度末完成の予定で、今年度発注予定4橋のうち1橋について9月末に入札。概ね予定とおりの進捗であるが、出来る限り前倒しが出来る体制で取り組みたい。</p> <p>▶護岸工関係の事業促進 第1工区 護岸工等：施工中 第2工区 護岸工・滝馬川改修：施工中、新たな残土処理地確保の関係で予定よりやや遅れている 第3工区 護岸工関係の工事は5現場で稼働し、9月末に2現場の入札実施。残りの護岸工関係も年度内発注を行い、目標である6～7割の概成が見込めると想定している。 →今後非出水期に入るため、全力で事業促進を図ることとしたい。</p>
<p><平成19年1月冬季暴風波浪災害> ・平成20年度において農林関係施設の80%を完成し、残りの工事は平成20年度内に発注して、平成21年度には全ての完了を目指す。</p>		<p>▶現在発注済みの工事は10月半ばに完成予定（全体工事の80%）。残工事も11月中に発注を完了し、21年度中に全て完了の予定</p>
<p>○水害からまちを守るために治水対策を推進します。 ・水害に強い安定した基盤整備及び道路交通の確保のため氾濫の多い主な河川の改修事業やネック箇所の解消を実施します。 福田川：橋梁工・護岸工</p>	B	<p>▶福田川 橋梁工：施工中、護岸工：施工中 ・川上谷川 橋梁工・用地買収等：難航 ・野田川支川（岩屋川・加悦奥川） 用地買収等：継続中、橋梁工：協定準備中 ・鳥取川 用地買収等：設計中</p>

<p>川上谷川：橋梁工・用地買収等 野田川支川（岩屋川・加悦奥川）：用地買収等・橋梁工 鳥取川：用地買収等 俵野川：護岸工 小西川：調査等 佐濃谷川：詳細設計等（橋梁・樋門）</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・俵野川 護岸工：施工中 ・小西川 調査等：設計中 ・佐濃谷川 詳細設計等（橋梁・樋門）：設計中 <p>▶今後とも早期の事業進捗を図りたい。</p>
<p>○防災情報の充実及び収集による防災関係機関の連携強化並びに府民への素早い情報提供を図ります。（⑩河川監視カメラの設置 2箇所）</p>	B	<p>▶現在、設計中であり、今後、発注予定。 20年度中には2箇所とも完成予定</p>
<p>○ハードとソフト一体となった総合的な土砂災害対策を推進し、市町が行う避難情報が迅速に発表できるよう危険箇所の周知など情報提供を強化します。</p> <p>・土砂災害警戒区域等の指定拡大（⑩指定予定200箇所） ※全体1,717箇所（⑨269箇所、約16%）</p> <p>・重点的、集中的な土砂災害対策の整備 砂防激甚災害対策特別緊急事業：「滝馬川」今年度全工事完成を目指す。 急傾斜地防災対策事業：「河梨」今年度第1工区完成を目指す。</p> <p>・土石災害から避難場所や避難路の保全を図る避難対策施設整備事業を推進。（⑩継続して6箇所について事業を推進）</p>	B	<p>▶防災訓練（府：6月12日、京丹後市：6月26日）・市町防災パトロール（宮津市：5月26日、京丹後市：5月22日、伊根町：6月23日、与謝野町：7月1日）で、防災関連機関の連携を確認</p> <p>▶土砂災害警戒区域等の指定拡大 現在、住民説明会を実施中（9月末時点で14回実施） 今年度は新たに9箇所を指定しており、年度内には200箇所を指定する予定</p> <p>▶土砂災害対策の整備 ・滝馬川 ダム工：施工中 ・河梨 施工中 →年度内完成にむけて事業進捗を図りたい。</p> <p>▶避難対策施設整備事業 6箇所中5箇所事業促進中（用地買収準備中） →今後とも早期の事業進捗を図りたい。</p>
<p>○災害に強い道路ネットワークの整備促進</p> <p>・異常気象時の通行規制箇所の整備促進、災害時における孤立集落の解消するための事業推進 国道178号 由良～脇間：築造工 宮津市日置～長江間：築造工 伊根町蒲入～京丹後市丹後町袖志間：築造工</p> <p>・冬期の道路情報を素早く把握し提供するため路面監視システムを15箇所設置します。</p>	B	<p>▶国道178号 由良～脇間 2工区：発注済み施工中、1工区：発注準備中 ・国道178号 宮津日置～長江間 2工区：発注済み ・国道178号 蒲入～袖志間 3工区：施工中、1工区：発注準備中 →今後とも早期の事業進捗を図りたい。</p> <p>▶設置についての協議が完了し、設置場所も決定した。予定していた15箇所を10月中に設置し、11月中には使用できるようになる予定 ・ただし、インターネット上での画像公開は困難な状況</p>
<p>○安心安全な地域医療体制の構築に向けた取組を推進します。</p> <p>・地域保健医療協議会を継続し、丹後の医療連携体制の充実に向けた情報共有と発信をします。（協議会を2回以上開催）</p> <p>・医療従事者や関係者等の情報交換の場の設定や、各機関による取組の把握等により、平成19年度の地域保健医療協議会で上げた「対策の方向」（小児医療の体制強化、認知症対策の推進等）の具体化の検討を進めます。</p>	B	<p>▶第1回保健医療協議会を開催（8月28日）し、地域における医療連携の具体的な方策について部会を設置して検討することを決定</p> <p>・第1回目の部会を10月7日に開催予定。</p> <p>・小児科医師と乳幼児を持つ保護者との懇談会を実施（9月1日）し、保護者が子供の病気や受診についての知識を得、適正受診の啓発を進める。</p> <p>・認知症に関して医療関係者と地域ケア関係者との懇談の場を設け（9月29日）、認知症対策における「相談体制・医療体制の充実」の推進を図る。</p> <p>・地域での認知症に対する正しい理解の促進や認知症ケアの充実のため、京丹後市が実施する「認知症地域支援体制構築モデル事業」と連携し、認知症ケアネットワーク研修（10月24日開催予定）や認知症ケアマネジメントセンター方式研修（7月10日）を開催</p>

<p>○新型インフルエンザ対策について、医療確保対策の推進のために、医療機関や医師会との検討会を2回開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の構築のために、各関係機関の対策を推進するために、発生時における対応マニュアルの作成に取り組みます。また、市町等関係機関会議の開催と広報啓発を実施します。 	B	<p>▶新型インフルエンザ対策を推進するため、地区医師会・医療機関等を対象にした研修会を開催（9月4日）したほか、管内の病院や市町職員を対象した研修会、並びに市町の保健部門・防災部門との連絡会議を開催（6月23日）。また、6月から毎月「NEWS」を発行するなど広報啓発を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関・地区医師会等の参加する医療機関連絡会議を開催（10月9日）するほか、医療確保対策の推進や関係機関との体制構築の推進、広報啓発の推進を図る予定
<p>○高齢者施設における感染症対策の推進を図るため、感染症対策リーダー育成研修会を3回開催し、リーダーを養成、支援します。</p>	B	<p>▶高齢者施設での感染症対策を推進するため、施設の現状等を踏まえた対応策を協議・検討する予防対策検討会を3回開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーが施設内で指導に利用できるマニュアル、DVD等啓発資材を作成・配付するとともに、感染性胃腸炎の流行期を迎える12月までに、リーダー養成研修会を4回開催予定
<p>○児童相談所と連携し、要保護児童対策地域協議会未設置の2町（伊根町・与謝野町）の年度内早期設置に向けた支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所専任職員と児童相談所との連携を一層強化し、市町等と密接な連携体制のもとで、管内案件の把握と地域での見守り活動などの対応に取り組みます。 ・虐待未然防止事業（子育てサポートカウンセリング）の継続実施や児童虐待防止にかかる広報活動を行います。 	B	<p>▶保健所専任職員は引き続き毎週福知山児童相談所サポートチーム会議に出席。各市町の会議にも参加。要保護児童対策地域協議会未設置の2町（伊根町・与謝野町）については、年内設置予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未然防止事業（子育てサポートカウンセリング、丹後子どもの心のケア相談室を各々月2回実施）を広報啓発（ホームページ掲載、隔月発行の保健所だよりへの掲載（3回）など） ・未然防止事業及び広報活動の継続実施
<p>○障害者の自立と社会参加を支援するため、「丹後圏域障害者自立支援協議会」を開催し、関係機関との連携強化を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会議（1回） 専門部会（3部会 ①精神障害 ②就労支援 ③発達障害）各1回 ・峰山総合庁舎で毎週1回開催しているハートショップの開催などを通じて管内10共同作業所利用者の就労訓練等を支援します。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議は、来年1月頃の開催を計画中。運営委員会（1回）、精神障害部会（1回）開催。関係機関との連絡調整は適宜実施 ・峰山総合庁舎のハートショップは、継続開催。7月から与謝野町加悦庁舎で週1回開催スタート
<p>○温泉利用宿泊施設に立入検査指導を行い、衛生管理の徹底を指導します。（対象186施設中93の事業所を目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉利用施設等に自主点検票を配布するとともに、観光旅館組合等と連携し、事業者による自主的衛生管理の取組を指導・支援する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・29施設に立入検査を実施し、自主点検表、啓発パンフレットを配布し、衛生管理を指導し、レジオネラ症予防を図っている。温泉施設利用者からレジオネラ症患者の発生はない。 ・管内2会場で温泉法改正説明会（9月10日）を行い、温泉施設の衛生管理などを指導。40施設から責任者や担当者が参加
<p>○国民文化祭の開催へ向け府民の気運を更に醸成するため、管内市町の独自の地域文化活動の支援をするとともに、各市町において1事業以上の事業に対し助成します。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化活動支援事業：京丹後市及び与謝野町にて実施 ・地域における舞台芸術振興・次世代体験推進事業：京丹後市にて実施
<p>○地域の環境改善や地域での環境保全等の取組を実施し、環境に優しい地域づくりを進めます。</p> <p>①阿蘇海及び天橋立の環境改善及び環境保全等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産登録に向けた地域住民の気運をより高めるため、関係行政機関等による連絡会議を開催し、地域住民 	B	<p>▶世界遺産登録暫定リスト記載に向け、地元住民の気運醸成を更に図るため関係団体と協力しシンポジウムを計3回開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月には天橋立をアピールするため2280人で天橋立を手と手をつなぐイベントを開催した。 ・今後は、文化庁の発表を受け検討委員会を開催し対応を検討する予定。 ・関係行政機関等による連絡会議を開催し情報を共有を図る。

<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体・関係行政と連携した、環境面を含めた天橋立地域全体の保全を前提にした啓発活動を支援します。 ・野田川等河川による流入負荷実態調査結果を踏まえ、阿蘇海に隣接する地元住民・団体・行政及び学識経験者で構成する「阿蘇海環境づくり協働会議」による計画的な住民啓発等を実施し、住民協働による環境改善及び環境保全の土壌づくりに取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境改善に向けた効果的な啓発と各団体での取組促進を図るため実務者会議を計4回開催 ・5月には「浅水代かき実演会」を行い、農業者に水環境に配慮した農法を推奨 ・与謝野町、NPO、町立小学校とも協働して環境改善資材の阿蘇海隣接水路への投入や小学生対象の環境改善絵画コンクールも実施し、住民協働による環境改善及び環境保全の気運が高まりつつある。
<p><天橋立公園の松並木の保全・利活用の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・天橋立を未来に引き継ぐため、府民協働体制の構築を図るべく、天橋立継承準備委員会の取組を継続して進めます。 <p>松林保全作業の継続、天橋立の価値の発掘・共有・情報発信、今後の利用のあり方について府民協働で検討（ビジターセンター整備等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶天橋立公園継承準備委員会開催（2回：4月、8月） 今後の開催予定（2回：12月、2月） 天橋立まなび舎塾（2回：6月、9月） 今後の開催については、天橋立継承準備委員会において検討 ▶地元市町・観光協会等と連携してホームページ・チラシ配布等による情報発信を行っており、引き続き地元団体等に協力を要請していく。 ▶ビジターセンター整備 コンサルへの委託準備、地元検討メンバー調整済み。 →今後は、ビジターセンターの具体的内容の検討、管理運営に関するシュミレーションの実施・検討を行う。
<p><天橋立周辺地域での景観計画の取組の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観を活かしたまちづくりを支援するため、景観に配慮した公共事業を積極的に進めます。 <p>「天橋立周辺地域景観まちづくり計画」の平成20年秋施行を目指して、シンポジウムやリーフレット等による計画の周知とともに、ガイドライン策定により、景観形成基準の詳細内容や手続き等について理解を求めます。</p> <p>「景観まちづくりにつながる公共事業」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ガイドラインを策定し、天橋立周辺地域景観まちづくり計画説明会（4回）、「景観形成ガイドライン」意見交換会（1回）を実施 ・9月5日「天橋立周辺地域景観計画」告示 ・今後は、11月21日の施行に向けてガイドラインの改訂等を行い、円滑に事務が進められる体制を整えていく。
<p>大手川：景観に配慮した護岸整備の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶大手川：過去のワークショップの決定事項を基本として、白壁の城壁復元等について関係機関と調整協議を重ねている。 ・下流部における護岸については、出来る限り現地で発生した材料を使用し、周囲の景観や過去の町並みを少しでも復元出来るよう対策を行っている。 ・今後も、関係機関と協議を進めながら、早期の事業完了を図りたい
<p>国道178号府中道路：歩道修景・電線地中化の推進 宮津養父線（宮津市文珠）：景観に配慮した歩道整備の着手 岩滝海岸線：景観に配慮した道路整備 防護柵景観配慮マスタープランを策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶国道178号府中道路：現道部300m電線地中化完了 ・宮津養父線（宮津市文珠）：地中化計画協議中 ・岩滝海岸線：景観計画協議中 ・防護柵：マスタープラン策定協議中 →今後は、早期に計画協議を進める。
<p><丹後天橋立大江山国定公園の利用と保全の取組を地域・市町と共に進めます。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度 of 自然公園ふれあい全国大会に向けての取組の推進（近畿自然歩道の点検・整備、国定公園内の案内板の整備） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶歩道の点検については、自然公園ふれあい全国大会のエコツアーコースが決定し次第、点検を実施する。文化環境部に対しても、早期にコースを決定するよう要請していく。 ▶歩道整備・案内板設置については、高嶋園地が完了しており、他の箇所については整備計画を検討中であり、関係機関と協議を行い整備計画を決定したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用施設整備の推進（袖志園地（経ヶ岬）の完成、浦入園地の事業進捗） 	<ul style="list-style-type: none"> ▶袖志園地（経ヶ岬）：トイレの設計中 浦入園地：トイレ施工中 →今後とも早期の事業進捗を図りたい。

<p>②「丹後海と星の見える丘公園」の利活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 丹後海と星の見える丘公園利活用連絡会議の開催や管内校長会等へのPRを行い、管内関係機関や団体、関連施設との連携及び公園情報の発信を強化して、年間利用者50,000人、環境プログラムへの参加6,000人を目指します。 	B	<p>▶宮津与謝各市町の校長会及び京丹後市4ブロックの各校長会をはじめ、山城地区校長会へのPRを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後は、公園利活用会議等を通じて情報発信、連携を強化 来園者総数 30,405人、環境プログラム参加者 4,868人（共に9月末現在）
<p>③丹後モデルフォレスト運動を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全市町に森林利用保全重点区域を1箇所以上指定します。（新規：宮津市、与謝野町各1箇所） 企業や団体が参加して取り組む森づくり活動を展開します。（2回以上開催） 森づくりフォーラム等の開催を通じて、地域住民、企業、団体等に普及啓発を図ります。（フォーラム1回、ホームページ掲載） 	C	<ul style="list-style-type: none"> 重点区域指定の地元同意は得ており、今後ワークショップを開催し地域住民の森林整備に対する意識を高め、年度内に区域指定と地域協働の保全計画を策定する。 企業のCSR活動や地域協働の植樹祭を年内に開催予定 10月7日 アストラゼネカ（株）の森林ボランティア受け入れ 11月1日 宮津ふるさとの森を育てる協議会設立記念植樹祭開催 森づくりの普及啓発を図るため、年度内にフォーラムを開催予定。ホームページについては、随時更新中
<p>④野生鳥獣による被害の軽減を図るため、地域住民と共に捕獲の担い手育成や生息環境整備等の対策を総合的に展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> モデル地区を設定し、地域住民と共に被害防除計画を作成し、バッファゾーン造成等を実施して野生鳥獣被害ゼロの村づくりを行います。（2地区） 平成19年度までに実施したモデル地区において、事業効果を検証しフォローアップを行います。（検証：3地区、フォロー：1地区） 捕獲担い手確保のための免許取得のPRと免許取得講習会開催を支援します。（新規免許取得者数：20名） 地域住民自らが鳥獣被害防除に取り組むことができるように、各地で研修会を開催します。（6回） 	B	<ul style="list-style-type: none"> モデル地区（2地区）において、今後、専門家を交え現地検討会等を実施し、住民協働の防除計画を策定し、バッファゾーン造成等の対策を実施予定 現地調査と聞き取り調査を実施中で、10月以降に地区住民を対象とした検討会を開催予定 20年度新規狩猟免許者24名を確保 被害対策研修会を2回実施、引き続き研修会を実施予定
<p>⑤森林の多様な機能発揮のための間伐・利用間伐を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 高性能林業機械を活用した利用間伐団地を2地区設定し、森林組合等の事業体と連携して間伐の推進と間伐材の搬出・出荷を進めます。 間伐実施面積 5.00ha 間伐材出材量 1,000m³ 	C	<ul style="list-style-type: none"> 間伐面積等は未集計 利用間伐団地2箇所については現在地元調整中で、調整が済み次第、高性能林業機械を活用した間伐を展開する予定。
<p>⑥「農と環境を守る地域協働活動支援事業（農地・水・環境保全向上対策）」を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内全ての市町において共同活動組織を立ち上げ、取組面積を拡大します。（新規市町：伊根町。拡大面積：140ha） 優良な活動組織の事例報告等の情報提供に努め、人材、指導者育成を推進します。 先進的な営農活動を行う活動組織を立ち上げるため、普及・啓発活動を行います。（新規3地区） 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新規に伊根町、宮津市、京丹後市の8活動組織、164haで新たな取組を展開中 管内活動事例報告会（8月7日）を開催して、活動の充実を図っている。 市町と連携して、先進的な営農活動新規地区の掘り起こしのため、地域に対して制度説明と啓発を実施中